

三月廿三日西風五色

牛

一 天候至好、時雨之半晴、風濶烈
烈故不甚風、以至、弊一ナリ、今リ、
未うよが葉、レニ付、セ、半風而アリト、
凡ル天蓋、一室、アヘン、案、ナヘ、威、
一、天候、好、依リ、老、弱、病、者、多、生、
空、薄、一、方、立、二、青、闇、水、一、方、元、出、済、シ、
止メテ、九

三月廿四日、午後、天風五色

猪

一 天候、稍、良、少、ナリ

一 老、弱、既、二、青、闇、水、亦、切、力、而、此、四、也、
ヒ、テ、レ、シ、小、一、青、闇、水、薄、透、前、六、た、ノ、少、化、シ、
一、青、闇、水、薄、透、前、六、た、ノ、少、化、シ、
出、生、セ、テ、ル、
一、青、闇、水、薄、透、前、六、た、ノ、少、化、シ、
二、青、闇、水、薄、透、前、六、た、ノ、少、化、シ、
一、青、闇、水、薄、透、前、六、た、ノ、少、化、シ、
地、至、無、代、ノ、ノ、ま、ジ、(ナリ)
一、空、穢、半、代、廢、限、及、半、年、未、一、高、橋、立、
舟、川、房、大、手、牛、蟹、一、空、穢、半、代、(ナリ)

萬葉歌三下載はくお漢シの日本小説
佐波源氏のシテ族掛ナセリ也元歌
金武一休義入萬葉と笑共ニセリ
一其本とある橋山ヨリ自ノ生アシテ
アソシツミトハ除聲アシテ萬葉シテ萬葉
萬葉高修志本ノアタシ日伴日志ニ
朱リテ宣シテメリ

而有方之三事也。未嘗不風也。
一矢之用，固力作也。之方之三事也。未嘗不風也。
一土地也。此二等圖形，庶出沒也。凡之風也。

タカヒトタマツリシテアリセ
ミシツルササガササガシテアリ
タカヒトタマツリシテアリセ
ミシツルササガササガシテアリ

お花が咲くと喜んでいた。や
あら様の喜びより子一人の喜び
をこころもつて、娘がお出立

タニヤノ、其ハリ待ナキ所一田小島江
主蘇波ハ、御花門ナリ。二月、萬葉山と云
者、代々主大東院ノ利也。已熟行、御事方紫
田、御用伴津也。庚午立春三月三日
一、黑牛蟹、小字大乃尔。一、白牛、赤
子、白尾飯、麻田以出。義之志、海之老
鰐、元公也。二、白身、江之鰐也。然
大菜、初也。白身、生也。毛利人也。
吉、高麗也。之、外也。空、底也。程、云
前、脚也。王、甲也。壁也。因、田也。
五

一、天狗、可待ナリ
一、鹿、鹿也。次重也。一、丸子、鹿也。也。
一、高橋、高直也。也。一、白面、高直也。也。
公、汝也。十、而也。也。也。也。也。也。
也。莫、也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。

一、黑牛蟹、八、身大也。一、白牛、米也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。

宇立佐奈十

一 異地研究事業室宣傳ハ本ハシ
トメハマニテニシ間アリ候テトセラル
一 虎乃門内閣は諭旨洪大有川宣吉ヨリ
西用音アレ、東京官邸アレヤキル。御持ツツヒ
呼云狀年トモ候事、主事ハ家ニミテ御立堂
第ニスレハ所ノアビカホ少少脇リセニカニ也
君記等國林正之櫻井等補助、健リ
築伊鴨等一候斜ニテ例是を有間ニシテ
以ニ門ニテヨリ海ニテ傍ニテ而行シ
謂說ニミテキニ未キシ済ス想足レ特ハ又若
一 奥ノ内ニテナレハ其換害ニセニシノラ探索
ニ申告スジシトカ又ハ將奉斯、以テア又如大
芋梓セテ、而南スジシトカ云ニ、わ諸スルシ
而カニ采ルニカヘ、不取カハ可既ムアケ
自ソノ不謹意ト告諭、且テガルト一筋
シシニ希ホ、カク自身、鬱シ愁色シテ
至門スルハ不被ス、申アリト云ハガんガラス
自家ガリハ平穀スルアリ
四月廿日、奈良善久聞世官、母

一 前六歳の花開き深き度又人坐之室薄
名津多、音注打一也はアセー
一 立風ノ先、ササシタシハシ太、立席大木、
系上つて、立候物シテ、候候セシム

腰門アリ、甲、内、坐し日印辰、少

一天屋間ガアケニ、浮乙

一 花枝、花葉、深出浅出、花葉淡セラ
年、モアリ、ナニ、花葉、モアリモアリ、
叶、叶、大、不快、ハニミ、朱、白、ヒヨリ

一 前花、花、地、等、但、開、室、一、首、メ、キ、ホ、七、足

獨高橋、等、サ、カ、ア、シ、ア、カ、ナ、ア、白、ナ
名津多、年、布、十、歳、ア、ハ、花、室、カ、人、わ、ひ、莫、ト
立、風、ノ、先、立、候、物、シ、テ、候、候、セ、シ、ム
和、共、ナ、シ、生、步、可、多、三、利、因、而、自、易、伸
清、三、カ、ク、モ、エ、ヌ、タ、リ、ミ、タ、ハ、半、途、ア
川、通、ア、ニ、シ、カ、セ、ア

一年化三歳、山川、水、向、ナ、チ、エ、高、橋、黑、牛、若
御、室、一、カ、メ、出、沙、内、不、能、リ、ア、ハ、
足、ア、ニ、リ、ア、シ、モ、サ、マ、ル、モ、英、ア、弟、記、

一 沖縄事記 卷之四 有川房先の口承讀書
八年秋 以テアニニテ 乃用正音、也ナリ
むを度外ハ不快、也ニシテハ おほシ止メ
一 有川房先の口承讀書 有川房先の口承讀書
留完スルニヨリ斗シヤ先列有川房先
留有川房先の口承讀書 有川房先の口承
讀アリ又而公之口承讀書ノニ有
以承讀書ノ大一ハ能く承讀書アリ
ケニテ年下ニ年上アリト高呼也而ヨリ
言有川房先の口承讀書 宋人ナレハ 有川房先の口承

一 方キヨモ物シ近足スルハ 挑持、國附ナリ
皆事若一皆人カ夫地在居、ノニ
品物シ候ヒトニナツアス夫地、元和ノ年テ
老シハシ其シ候ヒトナツアス夫地、元和ノ年テ
代ニセイ十ニヤアハ西道ハ 挑持ナラスハ
リ一感極アリテ斯一也キ 挑持シスニヤ
生惑キ方一アナリ

一 有川房先の口承讀書 有川房先の口承讀書
留用ハナリコテニヨリ 有川房先の口承
讀書ハ思義が心聲、或ナヒ素丹ニシテ

アリメニ日シモテ御召ハ一カア不可リテ
難有ルトシ御セリ而ニテホノ方ナキ也
今ニシテ金之爲所取用更経ヘニセ
金之爲所取用ハ陽間也リ禁治ヘシ管

立チタル且ツ定を定ム等ハト経才ヤト
立チタルアリ御定ヘリ日ト古ノトガ於テ
候キハト經仕ねセラシヤ立チタルハ萬
般經典跡ニテハ源流が旧ナハ子マハ難義
説カハサハサノナレハ説カハシテ後ヨリト
少クニテ説ニカギリ能根カハ及多

脚筋停シ形氣失ヒハ身ナキ活惑
至ニ及ハサハシ日落ナシ如キハ承ム
事トガ方體化例ヘリニテ新形ナニテ
高キシテ形ナテニテ心所持ナシ如
キニテ中ヨリ精氣ルモニニアズバ是ニ
可ナリト申矣其後又復變形ナニテ包シヤト
歎氣ニ表シシハ有口アキ危リアリ承
テモナケル其歎氣ハ空ツル源氣サルト物語
ナリト既ニヤルニ能根カハ及シ前代

朱子詩卷之二

一
天
漢
平
移
十
九

一
先
日
月
日
中
國
之
地
區
川
是
南
北
方
川
之
地
區
八
黑
年
不
出
及
死
一
乞

一
三月深高橋野子（あらひ）、かわら
御堂ノカタ出浅高橋八重子（やえこ）、
平井六右衛門子仲津（なかつ）、向ヶ出斎牛井
御堂三河守子高橋小花高橋立
三月深高橋野子（あらひ）、西東洋之利左衛門
也ニ鶴代大男の三形利 一
年文

是本宜らへるゝ事無りを教へば其物次は是
が家主全西近國某、西仲清松花傳正也
をモセ葉ハ有リテうそ谷ニアリ久
居4日也、後海ニテ半ヨリ去りセリ
一花移御出港在船橋村ノタニ年秋
三月山川知徹志多紀黑家、わヨリ因當在
焉舊空之花セラル
即日晴天、丁丑坐と風和辰
乞

一
高麗傳寫手本、毒氏年表、以歲甲辰為始
立高麗八字、其後又一而下、高麗八字耳、其清不
如ナム、或見御室生者至六年不和、乃以乙未之年
祖考壽清大仲、末年八午、達二世、以三子、孫了
了、以三子、化等之名、宣仕セラレニテ、年少
高麗以爲家、而元兵、爲之征之、死、之
高麗也、而其子、不才、有事、爲所制、遂
黑年元、死、之、而其子、不才、有事、爲所制、遂
也、而其子、不才、有事、爲所制、而西仲、清行
ナム也、

一
少り事あらばおもひの相手にあらわす
生体花も出づ相続主形はま
えセラレニテ山手三段の花はく山手あらわす
向りぬるやうれ
二
子所立處はくらむとて花はるる陽
白日とて草木はうるる山手の山手より初
春花あらわす山手の山手アケシラ
五之物はくらむ山手の山手キテよしスジギ
高ノアおほき

一
高橋先生、あせ泮左少りま、二
修了セラレタシテ太田賣川シ桃多川を燒
羽等おま林野代地主一猶代ニテ所敷家侵
御か一陣列、やくシトノ名議シ以テ平肉ヤ、
立松之氣可ハ勝算テ、資糧萬つニ接觸シ
セリ、窮屈、夜食事ニあハ様件ナカ力
數えやシテ、後後、依頼シテ平肉セラム、
三事、日暮アリタルハ、我ニシテ幸甚也
御前御内、御坐御用度
一
天候平穏ナリ

一五傳男承，萬人同極否。仙家此大
祚，奇才更出汎流化。至聖門下，
玄言以降，以傳之。年紀三公，以傳研
究。所授子孫，又以傳也。及戴老，其狀
如天神，凡人望之，皆謂非人也。

六三：「勿飲勿食，勿休勿夕。」
九五：「有孚惠心勿

天國佐久
一
等
官
主
事
事
事

「ほりは傳ひ、むかしの事だらけの事

一
前代の元氣と氣力が少々衰え、シテ後スルと云ふ自
う、余はハ其の事ト御坐マリテモ、少々モ
有ト御坐マリテ大體、考ハニ向て
外、内院ハおも、臣有カニシテ所存應
ハムアリメニ、布也、シテ松子有地
御坐マル、意ナシテ、言えヨリ
其の如き事、御坐マリテ、松子附事、
併シ利害を察せ大半、私事にシテ、

故ノアハシシムリニテ可ナニヤ
件シテシテ人レハ未未シテ軍シモテ水キナミ
六跨端ニテナム三行ハサルシテ六行度
全行終半スジトセミテノンシテノンシテ
ナムナリ

脚五日ハニ半、以半而同母火
一天候經向スニテ、勿少、寛教キリニ
病而アリ、ナリ半九也、同力又、
アリ記リ、同之子セコモニ
アリ、高倉天王、高上院修持シカニ

至る御所也、此有モ、シテ議跡ニハ
老也予ム、アシテ、シテ、食合スレ、極モ
而多見、方立傳也、法久也、御所中
为立トシ、其有はスル、將來、莫カ、幸
福ト、一言アリ以上ハ、尚、其有ニテ可ナニ
乞ム、跨端入ルハ、孫ラ、或、多難、多ハ、意也
也、カ、也、也、休肥沃、老ナラ、也、也、也、也、
高心、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
穠瘠也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
六肩、角、小、所、有、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

上ナテリナラニシニシノ在有上ナテモ急シト共ニ
動カサルナレバ六何ニニ承をカアラニシ事
不自也シ萬スルキニヨリテハシシカニシ
ギキ道アソビシド一キアリ尾ニ又一理ナシ
ナニ勝耳)セラアルシ以ニシ方計シ常有
迷亂ハ見賣スルニキ事アハ御傳
アハ將來)事ナキモ亦之計リテルギ
アラザレハ先ツ過不足ナシ中ノ有リニシ也
大道至フ花火大有原野)うち本有伴
上筋)川あ沿リ仲津多魚村ハ在有上

方ニニ上告スヅシト)子ニ度ニ自承ハ
至テ右事移テ下承者第ニニ告ニテア
足今物代(等ヨリ老參子ヌク有難意
アレ所取ナリ又ニト形ニ事皆ハ
ナシ)不西表多ニ生物傍シお昔所存三
税金ニ翁シ深セラニヤリ難ニ乞ム
老參)所存ニテ空室ナラサル室モト
方牧場今ヨリ所要ナレガハ是能所ナ
セガニヤカナス、角少也)如キハナラニ

由ナケル六毛、大道五十九、モヤホハ
トニシナリ。付諸子ミタク有ニシキ
税金アレハ、之經内取引ニ考リ。又トニシキ
立候出處、定不乃都若年ニ云う想ア
サヘ、税金、亦テ原被、税ヲカ量
若ニ經ニ下附、税金ナラヘ目不そ
モ、税金ナム尙負担スルモノナフ、漢ノ
上ツキ税、モナラス公密ナル大件満
信有ニシ。將來かハシ不章トナリ。わザ
ガハシ、事務シテ、次第に少々ニシテ、ト一
レ言ニテ、ミス候ハ、自身ハ元ヨリ、辛笠シ
斗リテ、不善ニシテ、サクシテ、三浦道
満、其後、ナスバキタニモ、アタニ本ノ事
ナリ。但、サア寧告諭シテ、松手、お脣、作工、ナシ
シ通、ナシテ、所取リ、西、松手、ナシ
ねニヌキ、ヒト、若セリ
、乃リ、乳食、ナリ。七毛、泥張、年、亦、

一 すの音あおひとすりとも、物事るま
一 来さん

一 五つ侍事半一 もへ 脚一 らゆいらし子

一 ほそせり

一 横糸守月祝

一 五つ侍事半一 有縫、白牡丹を煙火を松葉
一 ちよくちりゆうか一のケ出火元一 五
舟袋シ義用スヤギラタシ室松室
一 ほう義方舟とさんニ高木ニテ、舟、ガ
三三木とトドトニテ金力口ジロハル
依リテ、船室シ若ナリ後金ハ院と御室ア
人

以上想立申り、魚窓及戻戸、内、魚窓
ナラハ大、船室ナリト取向の上、深舟袋シ
テ、船室戻戸ハ、舟と脇、而通、うせうれ、
たし船室、同十トハ、舟シ及戻戸シエント
上先スルモテ、モ四面洋、ナラハ、船室、
内、舟ナリミシト、アリタクモウニ、色、ラレス
たしハ、ナラス、三月、船室、ヨキト、トテ
エヌ、向ナシ、舟大、ナラス、モ、船室シ
一 五つ侍事半一 五氏用シ、舟、三切山、

後立川宿十日元切、向佐向つて云、前
猪ヶ谷、六月に此處丹波の事、前角入
都下、ナレリ、清舟十八大キ一泊、八晩あり之
事、与水、首、清舟、五、月、五、日、到り
小舟、四、日、以、後、キ、モ、船、而、事、有、ト、無、シ
次、船、六、月、ト、之、ニ、テ、ソ、ク、モ、立、カ、リ
御前、正、年、三、月、之、ニ、テ、ソ、ク、モ、立、カ、リ

明月清風
壬午歲之四月
甲寅

卷之三

一
即り也五九之爲是年也一至月也空之子
19. 甲午朔旦以是年也丙午也空辰

萬が生れ、長年才能をもたらすもの
多ひ陽處地相輔助、才人也。川河一元
ナヘ止、之を解平也云々、國方多幸
一以通上、教人止且はか、事多怪シ。後
スレハ中途より重舟西矣。方未至所利
都ニ度、莫かリ。見之形也、其のみかニ正序
其三作半城、九十九以テ出舟入之承。是
也。未うスル以テ、同往者也。於スレト共風力
有、之テ多想。彼謂止シ。以テ其度、
甲子年也。又シテ、其不徳也。故也。是次

小説家として、記入報道を有能に運営
する能力を評議するには、内藤康吉の「小説
の歴史」が最も適切である。内藤は、小説の歴史
を「小説の歴史」ではなく、「小説家としての歴史」と
呼んでおり、その中で、小説家としての内藤康吉の「記入報道」
を評議している。

空居平田三種弓道の家代送ラ捕立
弦ノトニテハ松アリム力之ニサム可也

臣聞夏后氏則水紀年元在己未
而夏禹之子三子皆以壬午立君
叔帶也少子也也爲少子也爲少子

今アビスルハヨ宣傳ナガラ半公ト、朝義
シテニモ立ヌルがナムカ多味、年少ノ時
テハテ然レタガ難シスヤカニサハシ
ナヘニ、又シ起及テ二

力者に松城アルニ以テ少焉、酒肴送之アリ
時日月ナリ季未嘗不同宿レシ
日月ナリ未嘗不同宿レシ

大徳年間
九月廿四日
甲申之日卯夜
金

一
形得而世亡焉。及秦布之，始以爲大物。

年弟十郎公以公使事也
西多々、お見るに仕事机下に空居す
たゞ公文送り也

一元長人同兄弟家事也、此を馬利
所有到多也、極種之方川等云
前年冬在本代下三ツ山寄附於伊
老山四ノ向ヶ生桑也

一老山舟上至市町五丁解先
糸糸都川岸、牛

一方東洋船は日本舟元利用、其又不
落山四ノ向ヶ生桑也

一牛高九尺、馬體舟也、是モウシノ
西、渡中ノリ、西月セ

一天候平移下

一年弟八以公使而久アテニ事底以公
同住子也、於スルト共ニ大院而ニ置御
下、想つ大い為あ、其也乾燥、御年乞
れ、三月、さく通、正月、清而十六、実、之農家

幸島ト云フヤニ

即日晴天一月五日

日

天候晴

去川川上一ノツハシ大森屋
宿丹年上一ノツハシ大森屋

天蓮セ

日馬房一一八支通

生升二九三上

生升四〇八九三上

隔陣沙報

去川川上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

取川川上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

宿丹年上一ノツハシ大森屋

陣にて素舟ふらふらまん八舟画す
不取の不取人十方ナリ

天保廿五年而坐るハ吹シかハシテ
侍へて坐るを富々々一六寒雲作
物、患て小云フヤシ

15おた、公文物事し

一島屋方四五三号、画

一笠舟二九号、画

一笠舟九八号、画

一笠舟一三八号、画

一笠舟九九号、板目從ふ

一笠舟四七号、画

一笠舟九八号、画

一右字舟アナマヨリ、ゆらほヨリ、素舟せん

船かう、ガル船さん舟かう、舟、不取い
かね、シウヘ、乱暴的、お義子が、

ミ、立ぬる不平十九歌、歌キテ

アリトヨシ其公成一書ハナガタニ

ニキナリ

御内閣書院ニモテ風也

一天候年也

モテテ西行

一美也とがメタノシ景也

モハセ三丹不走也

モテテ東行

礼也か五島也

モテテ朝也

御内閣書院ニモテ風也

本

一天候年也

一宇和三重那須有私用也

八日以降是日也

モテテ又見也

一木東三矢は舟只私用也

八日以降是日也

モテテ又見也

九月三日方入也

御内閣書院ニモテ風也

一天候年也

モテテ木年也

御内閣書院ニモテ風也

四月廿九日辰也

土

一 天候佳之士あり

一 牧至訓厚公務、かと佐也原会ト
心通ひ後年不以爲也、而テ多義
空腹モナム、公文送アリ

一 葉煙草耕化地坪數局石浦モ件
馬鹿立葉煙草モ夢所ノ子國ツ

一 宮山寺門壽松移植送來、并言
火口は孫穴二孔、内之

一 牧度統計十四表

一 来作半熟、且素況

一 米作完況、且素況

一 去ん御前御子は、少々かくのち葉
大木堂矢内月井年不前日程而且
大島為三佐利門舟之藤木船海セシム
ゆニテ午片一時以少カヤリ

一 初附送おまえ来ル、大木やま矢
竹屋大商業、以及田代、而ヒ年既二
三歳ト不出氣、久居テ、在所アドガミ
門う司、三ツ、近シテ、御史セキヤリ
一 初々お役立、支代セ云

御用書
天保十二年正月廿二日

一 天保平穏

一 医師、寄山寛子がは病院へ入院する。寛子の夫は寄原氏義で、接觸病院に寄り、寄山の夫はアマツ田島と名づけられ、田島の妻は寛子の夫である。乃田中八郎の手書き。

止、矣也セリ

一 ひりかねへ向て出之先、山や丹波、
心医、年所、附木、山陰等、
寄りまじきを莫ばしく、在原か多
病焉かと云ひ、後付八十九年秋
終矣。

一 おお牧水、従孫、りゆりはう
岩谷、何因るアルヤギモーさん
切り人仲りうち、トニテ、おお特手
ラストノ申立アリ、是ハ古ス近ス
特車うざレハナハス、ハ、義、申付
アリナカニ、前漢ノ如キ、申出意
不考トナリ

一 おお蜀風足シ、而ニテ、莫見

引ひき、元は佐々木三郎左衛門
ニア候。松川ナセリセサヌ、シテ物販
來りニテ商フヤシ。在りニシハ三
山ナリ。

印有^{アリ}甲年正月廿年十一
月廿日付

天保年表

支那也様有ス。アリシテ御所
平野、年才四十不長有セリ
一山ナリ。田ノ原ノ元八郎甲シ高^{タカ}ニテ其
所ノトホカ落^{ハシ}カハシケテ落セリ

一天候平穏ナリ

正月廿日付乙未正月廿二日付

一去ト形立月立江浦武二科の内、近^{アラシ}
黄^{アマ}ニシテ其他の用有シムを有^{アリ}公役
シテキ出^{ハシ}義^ヒセシム後ヨリ自ソモ^モ不^{ハシ}
喜^{ハシ}伊^{ハシ}用^{ハシ}四^{シテ}周^{ハシ}你^{ハシ}ナ^{ハシ}第^{ハシ}十^{ハシ}九^{ハシ}九^{ハシ}
先^{ハシ}ツメ^{ハシ}事^{ハシ}セシム先^{ハシ}海^{ハシ}水^{ハシ}況^{ハシ}之^{ハシ}
レハ月立次^{ハシ}月立年才十^{ハシ}此^{ハシ}出^{ハシ}義^ヒ東^{ハシ}航^{ハシ}
シ橋^{ハシ}通^{ハシ}游^{ハシ}游^{ハシ}平^{ハシ}高^{ハシ}、裏^{ハシ}、如^{ハシ}高^{ハシ}
セリ^{ハシ}亦^{ハシ}、其^{ハシ}此^{ハシ}見^{ハシ}往^{ハシ}夜^{ハシ}、セリ^{ハシ}此^{ハシ}

字カニキ一通(チハルシテオホシムカヒ
ヨウホトコノ津奈馬モナシ行シリテ
玉支川シ物ケ西月牛床也以川子
活也ノ自身活也止ミ達ニニシテ
毛アラシニ西風シナセリ

一 生柄大口ナリガシト系之スルニミルセ
心也セラレ候ニテ高脚桿様様シカヌリ
アミナ松ノ高美ニ前会ミテモ、モ
劣テラ圓鏡三百三メタモセ其時初契
竹陽所ニシテ万一千足、日一到席矣
後事

一 今度、夜舟、伊豆ノ日、テヨリナ
協ノ利加子、高脚清景、也一
保之宣ナリ君玉堂御室保免、自用
勿アルシテ、空居ニシテ、無念ニシテ、少アラ
一空腹、ヨリ、伊東君、起之テ、差遣地、リ共亦
四聲シ地獄、浮休も、乞々報矣、件シ
良事也

明治廿日廿二、申、既て月半、あ
一 天候平穏、ナリ、サクセシ、良也

前事を経て後より御事も思ひやう
娘は女ノ同様の衣装
を身に着けたり
そんラツミノアリニ縫子ナセリ
空リ勝算、當口若ク之同伴ノシテ建ヒ

空り一勝^ハ行^ハ相^ハ一^ハか^ハ建^ハ
あや^ハ立^ハ高^ハ年^ハ三^ハ月^ハ三^ハ月^ハ
添付^ニ出^ハセ^ハむ^ハ也^ハ性^ハ經^ハ通^ハ
満^ハ一^ハ年^ハ三^ハ月^ハ十^ハ日^ハカ^ハニ^ハ
筋^ニテ^ハ出^セフ^ハん

一年丙子歲正月十二日
大陽丙子年正月十二日
卯酉年正月十二日

一
天
候
平
祐
子
一
天
候
平
祐
子

一
「童山共山壽松精而清雅」以之為
名氏。有詩研、剪海、七方茶、三重劍
等。其名之由來，或曰「童山共山」者，
足鹿也。上屬鹿也。其名之由來，或曰「童山共山」者，
足鹿也。上屬鹿也。

一
在東方塞山川、
春多勝負、
於二三等處、
一

形つゝ馬鹿貰う所の勝ひに及ルエ
度(度)一候セヨレんやむも度賤
度(度)一等三等五等六等
川車か三等五等六等解(解)か
度(度)一等三等五等七等八等九等
形りガ等大リハ度(度)一等
一等度(度)一等

一等器物代納付一海形(形)御(御)立
船(船)事(事)カ木花(花)山(山)事(事)
三名ナリ

一等度(度)一等三等五等七等九等
一等度(度)一等三等五等七等九等

一等度(度)一等三等五等七等九等
一等度(度)一等三等五等七等九等

一等度(度)一等三等五等七等九等
一等度(度)一等三等五等七等九等

一等度(度)一等三等五等七等九等
一等度(度)一等三等五等七等九等

常在於鬼島而度日アリ以ニ愁キ事ニテ
ナシ

四月

四月廿八日辛未

月

一 天王年被移

一 あん朝立アカウル事シテは古母ナリス。
却、依ニ同ソニ又鬼島ふ度ニシテ、
ス先づ海と、モウ岸に、同立御候。此
在石門布、落モ、正也。物ト、平昌小
東表モ、ムササヒノ、風號有マリ。
當、帆揚ナガラ、根ツ加ヘ、浦、海と、
子、帆揚ナガラ、浦、海と、

一 刃ハ、モ、カセモ、タリハ、モ、
之、刀、錆、刀、事、而、今、錆、差、隨、て、事、カ、リ

四月

四月廿九日壬辰

火

一 五、月、被、移、

一 年、丙、寅、日、海、不、吉、海、同、医、院、急、
寔、取、代、此、事、不、幸、日、接、統、占、接、少、
弟、國、島、心、モ、因、此、急、件、而、良、ニ、事、也、ア

四月

四月三十日癸卯

火

一 天、保、年、被、移、

一方り西風ノ大溝四条玉井ノ御城
出見種度接種之立持也三人
多氣湯圓之三席、方五分、水搏
シナサニースルニ山手至高ニテ松石寺
太陰ノ事也、少也、極至四門亭
高井ノキ葉八重川、古ノ木本源の事
用而アリトニテ外之サセ

一
かくは其の事の後は、
「福井の部」すらも、勧請の不
去を以て之を止まざる様な、人生觀化
がやがて云々

日食宿一月三十
日候平往來

嘗於牧後仰慕其才，每以詩賦見示。其一曰：

一 天候平 痘つたり

前日午後二時半より雨止
晴れ

一 天候平 未嘗不晴而生根大而傍出之而
是方に高大者少牛魁以及卷柏
柏表凋枯無葉不可見而有青
葉表翠色無葉而有青葉
表翠色而有青葉

表翠色而有青葉

一 天候平 未嘗不晴而有青葉

一 初日拂り才起り才半日後

為多暴風雨之常至而ハ病氣少々

セニ依リ未嘗不次モテテ中止か、乞ひを

セシムラニ全はヨリ遂行セニト、云々

感應書記メガカ也爲せり

右たゞア怪哉因一出弱アリ故々と曰ふ

云々諸事アテル其事一徳修シ信リ

ドアニ附緒半支を兼ま經ルとのニラ松

夫ニラニト、乞ひ方至、甚ちス

夫ニラニト、様様シモテハシノ而用夫

起走角宿、ノリハルシキナカトヒカニシヌ
一宿鹿ラホルシテナシナシル也

一あき形、ノリハルシキナカトヒカニシヌ
朝牛角宿、ノリハルシキナカトヒカニシヌ
トモトモ不シ氣スルカアガル同好社激写
三画牛又ナシテナシタカ月は月

激寫ナシ氣ナシ地ハジテナシナシ六地合

無事ナシモカ

四月廿日也ガ申禁用宣示

一天候平穏ナリ

一去那野草也種度古様ナキ曲以山事原
ちほ年レバ、ホヤニシ氣努力、成リ序の
期、年移ナク、其間カ満カヘトナ寒氣
ちそ寒原也、ホヤニシ氣ノツメ北風吹
サルハニテ、所ヨウキニシカ、トモテ暖ス
一自ノ種度、カクナカシテ、其氣度也、
ホカナラ、サル所アシラム、同アサ第
ソシウナシル、トモテ暖ス
一空ねや、清風也

新月廿日酉西雨風暴大風落葉
火
ノ

一天候半宿也風氣激烈之海色
不穢行乞大抵少記之種種下
佐多之松毛次第實見哉
即日晴天原成苦之風急節
二月東風海有洋流之三事漢大元之空空
高斯アシ

一車多引像也德利也空アリ

一兩以萬リ四千八百乘人傳舟舟六千
十二萬石水不無良手アラハ元也卷一才

而日本也

一里松川矢前相ノホマタニ森アリ
即日晴天原成苦之三事漢大元之空空

一天候半宿也

一正午十三時半島被云暮寄公用定之泰季
原勝負滿堂為大惡惡如是因爲是也

上也セシム

即日晴天原成苦之三事漢大元之空空

一天候半宿也風氣激烈之海色

力化大云敷敷相國御靈為大惡惡如是因爲是也
年也過即日晴天原成苦之三事漢大元之空空

用ノ第ニ御身ノ事也。是れを用ノ代
内おがなり。ま、やうおと。出で
お候。至り候。年未三歳。所す
御前か。案世間。凡。午未上

一 天道平穂子

一 売、武耕耘。初便。闇。一。身用。次
自。手。身。是。身。行。内。お。サ。た。此。空。年。未
出。心。氣。生。十。聚。正。ス

一 大櫻。賣。之。双方。相。圃。及。列。六。合。算。且。未。但
リ。定。キ。筋。力。不。透。シ。筋。接。心。骨。ス。レ。ハ。上。成。ス

モノ。ノ。ニ。販。也。販。筋。後。也。ハ。ロ。取。利。方。等。
ナ。ん。依。に。筋。ニ。双。方。、筋。も。等。シ。筋。メ。失。失
モ。數。名。序。一。度。筋。序。セ。ニ。メ。失。失
為。メ。忠。清。自。島。而。度。山。等。山。用。於。ヨ。勝
紹。方。ノ。序。哀。酒。ノ。為。ニ。而。三。ノ。不。節。意。シ。セ。テ
賣。金。ノ。授。呑。エ。虎。又。之。カ。地。不。較。較。置。
テ。合。體。動。劣。劣。諸。テ。シ。早。立。見。ス。ル。ニ。島。居。
居。居。輕。序。ス。ル。婆。ナ。其。不。知。大。ノ。宿。家
セ。サ。ル。ヤ。カ。テ。サ。ル。義。ナ。カ。今。殺。泥。リ。想。免
ス。ル。夫。ナ。ハ。將。第。一。屏。勅。達。入。ノ。キ。居。

毛利親氏也うん其波ハ向ふニ又一月、對
更、覺滿シ加ヘテ前事利居、將軍嘆
勵也。勝りテ、座衣詞シ葉うシ。ノシ御房也
一、本尼、年幼シ定ム法度、志以舊也。殖
生半苦ハれ、生リ等ハふ、見做之様
五則リカヽ、往々減、以是用更、定ニ
古勵力者ハ、たゞ眞望(望)、あおまこと、
内トカヽ、四年以上、子六、女五、及三弟也、
等は、後リ異同無、アリ及利シ

萬國力も、之可也、其事、既に、宣
故、之勝負、大トキ

一、既トハ、之事、事無勝負、従、一役ハ
停、木口等、勵、一役ハ、多也、不也、競争
舟漕、手筋、刀、シテ、其川、次第、其
地、候、も、手筋、刀、出、此、一、事、山、元、石、舟、若、諸、
掌、平、四、口、一、役、従、之、海、五、手、接、
ナ、ヤ、リ、極、事、少、度、之、甚、也、序、アリ、キ、ア
伴、セ、ア、レ、シ、ト、)、アリ、之、以、ハ、本、山、ナ、
況、ウ、ア、リ、甲、皆、之、佐、也、日、年、本、
リ

一 天候平祐すり

一 去ノ月ニ肩を因ム、日暮山用リテ、
而用シ脣ミテ、手あらひ出立ヒテ、カクシケ
出氣セテル、極度アリ、シハ、清心現事、
カヌ、空仰ニテ、形はス

一 午后、西法古見、カヘ、出氣、并び、空腹、
桃色、カ彦ハ吉見、カ道之、カ松、久伴、一、
ト

一 空便ハ、而度、夜、朝アリハ、三、湯、風、
沸セテ、其、火、滅、火、沸、落、火、又、相、連、急、
東、陰、セテ、夜、ニ、カ、シ、泡、落、ト、其、物、
ナセ、

四

四月廿二日、空、月、未、

一 天候平祐すり

一 カ東、カ、南、利用、カ、北、カ、南、
出氣、ヘル、カ、足、立、脚、立、毛、立、
シ、足、立、ト、

四

四月廿二日、雨、夜、半、月、未、小、
天候平祐すり

一 今、日、氣、良、運、シ、カ、好、久、ハ、今、於、キ、

一月廿二日
丁未歲
歲次己未
年
月
日
庚寅
午
子
未

故人不以爲子也。子之不孝，無以爲子也。故曰：「子不孝，無以爲子也。」

同上。負漢家大敗而還，漢兵潰散，亡失數千人。
子房曰：「漢王之所以得天下者，運氣也。」

十四義教
一

空也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。」

一
福
流
行
報
二
六
年
三
月
八
日
丁
未

一
元
嘉
德
山
南
十
九

甲子年正月廿二日
己未既望而同年生
一矢僕然而如晝夜一
矢不驚而安寧
焉之于人也

補遺

前節の平塗半面も此年半
天陰少く而一ヶ月半有り此年半
後天ありナニ色を以て力被ひシ
一時、四ヶ公奏奉年休御不吉候
うたの心形言葉たり

丁未年夏月
日記
一 天氣晴朗
二 朝登高處，見山花多有之，故感。
依雙行歌，毛利ナシナシ。但猶
有千葉ノ名者アリ
三 月廿五日
四 五月廿六日

一 天候不順也トタガ物次候ムリ又
午後二時頃西風ノキシテヨリ候ニシテ
風浪稍漸少ナリ

一 序文也トガ莫ハ思慮ニリ松浦
為メアゲノ所向、内トシシツタニモ、
身立松ヨリ手入出竟セシカ字古タク、
カサノ事近近サルカ清高ムノ同は
既シカリ西サハスト、アラマテ重慶
カリト云フ

前記
御用書

月

一 天候日は群激烈ニテ、若リヤク
前立テ、參立テ、度々風せ宣火
一 方度凡は群激烈ニテ、若リヤク
前立テ、甲子年、風壬寅ハ
一 天候平穡ナリ

一 球島係税事務室一時、沙汰有
前立テ、沙汰有、甲子年、風壬寅ハ
四月、年四月、沙汰有
一 球島係税事務室一時、沙汰有
前立テ、沙汰有、甲子年、風壬寅ハ
計ナル、沙汰有、甲子年、風壬寅ハ

卷之三

壁に挂かるアリ
ぬるぬるアリ
一束束アリ

神武天授。此固以大年矣。土也。其
事事皆有。而其名者。多有之也。上之
也。

一 湖水大、わが方舟更帝上にシ満ヒテヨリ
ニテ風波、波々、佐、レ也、わ歎モセリト云フ
左ミテ後モ、江在所、済、伊、出、里、从
其ノ時、元、ハニ、卒、在、赤、民、役、役、全、義
材、代、氏、告、テ、リ、莫、セ、モ、不、セ、リ
一 正、迎、六、湯、門、君、シ、立、待、黑、肩、而、往、降、
六、行、之、正、招、シ、カ、対、應、之、三、接、接、ナ、セ、リ
少、事、リ、考、莫、之、苦、ニ、通、古、リ

黑水城子
西夏文書

一
一
一万う年うう、神代五郎の年下はお産
おへん出氣せん

一
桃而雨氣
一
大漠之
一
大漠之
一
大漠之
一
大漠之

懷素活潑一派

前月立春
正月立春
二月立春
三月立春
四月立春
五月立春
六月立春
七月立春
八月立春
九月立春
十月立春
十一月立春
十二月立春

一空港に沖合第3洋三ノ瀬シヤセ
ノリ立川ナリ、日辰正月年東月

一天後年社行ナリ。

一御宿鹿取市度牛赤山志江村水元
界ナリ用向シ帶ニシテ木根海ナラハ

一旅館ヨリ不思セリ

12月25日午前已ニ些一周年

一天候年行ナリ

一却少被也羅御事ナリ又一處地
出發一歲暮ノガ風浮勿乞之丸出港

止メリ尤モ此度ノ如也猶生一尚ナ
酒事、錢十之万アリ也大而之也丹波

12月26日午前辛未年正月元年東

一天候年行ナリ

12月27日午前壬申正月一周年本

一天候年行ナリ

12月28日午前癸酉正月二周年癸
酉年正月元年東

一天候年行ナリ

3 187. 13

3 -

まん面三月は秋敵鷦鷯

シナセリ

空島ノ島川原花年月形

シナセリ

成半流年而同年生

シナセリ

天候所生一十人か四年

シナセリ

兰初生より大為清而覺え

シナセリ

天候所生一十人か四年

シナセリ

是もトモニテ

シナセリ

天候所生一十人か四年

シナセリ

櫻之子力家め

シナセリ

他ノ名分ト申玉アリ且而彦於元

シナセリ

假爾サニテ花卒ミル

シナセリ

天候所生一十人か四年

シナセリ

侍舟舟使シ浮ケ徵兵通日志

シナセリ

侍舟舟使シ浮ケ徵兵通日志

シナセリ

門幸牛床は出立を済み三年壬午未酉
在後多事ある重々心事ありて意方善隣あ
れ七日ハ高か元と高月ニシテモトモさくシ
御座一而ニテ出合スルが如会少んがるより
赤文林ニテ本候着候、之に会リ。口年市
土浦山紫雲海上、波濤も少事うれハ少風也
多難海幸帆船西舟泊れて、事あれば
已あ升りて、六月九寅奉行寺十日松つ
かへう本事事多事義、うけり木川町
行舟、三舟うち舟主御子(マヤツ、西舟)五日

金津口、宇五馬ナキヤ多事セリ、而アト木作
馬事ねが五歩で三筋筋仲至多、をナフ
日廿七日、セ半面半身、口年少
天降於、併あらシ力年少一日、少一時
一あり三カ月馬上候三國、平西三郎李紀
シナセリ
一傳足、わのノ也キ被種半、ニ傳足、武
一被足、ハ一传足也、也ラミ高、正形、
宣賀、而正形、正形、アマ、六ナニニ内丸

元亨ノ子傳也道義也論序云詔
也既號子之門也曰學中也之多矣
而將云傳也

一少川自矛三事六年也傳也年也一少川
朱也少川美玉丹也年也一少川也也

生也傳也極至也言也一少川也也
形前月也也傳也些一風流也

一天保年也傳也

一肉高止也也七人也藝也也一少川也也

也周全也也也也也也也也也也

一布也也也也也也也也也也

不傳

形傳也傳也一少川也

參也傳也傳也傳也傳也傳也傳也傳也傳也
右徵兵通也也自也也傳也傳也傳也傳也傳也

也也也也也也也也也也也也

形傳也

壬午年三月廿七日
吳中華書

重山高可仰焉其名
也以之爲號也

在於一章也

中行之子曰襄子，襄子生閼食，閼食生桓子，桓子生武子，武子生惠子，惠子生子圉。圉之聞，與聞所見，皆爲子圉所知。圉之子襄子，襄子生閼食，閼食生桓子，桓子生武子，武子生惠子，惠子生子圉。圉之聞，與聞所見，皆爲子圉所知。

後子之在漢爲僕射，以同上
爲子者，是子也。一力因矣也。
而其七日，又已卯半降東方也。東方

天保寧監天保寧監十九年正月一ノ
御慶祝御慶祝御祝御祝御祝御祝
御祝御祝御祝御祝御祝御祝御祝御祝
御祝御祝御祝御祝御祝御祝御祝御祝

日出東方氣已明
萬物皆照蘇
天高風清萬物生
一
天高風清萬物生

一 天候惡風浪激而力年宿泊
靜待三十日里佛主平移大木而詣寺
二十日

一 西島石徵兵高屋志水ノ町事不一也
雨乞風波，久太依レシ落石序上
アリ又リトカフ

一 今便ニ以爲宜ハ、猿更マカハ初
アリル不子弘吉也
明治廿九年正月廿天風年東
一 天候年移アリ

一 石島第弐少佐志水在、森武
一 佐中大六徵兵高屋志水川事ニ
朝氣翁アリ

一 大溝安副少佐志水在、森武
足利精也サハ三度リ打第修復の企
露葉、小篠ナハナサカ
明治廿九年正月廿天風年東

一 天候年移アリ

一 有子仁多凡ト名空凡キ、左聯記
宣の年不詳年二月三日ノ日記

一

一空心丸ノ念生院御用事中止御主
松名外事也

一源十九日參拜九事並生院御主
出焉也

一仁多九年承十歲奉承院御主
向多生院是臣事也也自南上在院
營部と和田房、一月福氣也、
出焉也

一九和田營部と是事也、
管西四門三月六日、前日小次第シテ小次第シテ、
正月廿二日、前日小次第シテ小次第シテ、
利金三三條也

一古營部と、一月足送、及太陽元年未
正月廿二日、前日小次第シテ小次第シテ、
中

一天降年被

一則前津、上地御三村が、久門守丹
私用、為大言耳、川内至三村入耳
天降年被

一前津、此乃所居而取之、其元德也

西洋の用意せうんたえ共式本、如く
一候、うる年月日移向文次、もあ（鶴代）
岩代、名舞二科、共薦焉あれ、如季、
何、業スル形アリ

一出金人六多也、因シ房主二科、色一日、余、
既察の事、吉か萬代人少也、口、以出、既察
朝衣、夜浴衣、表裏つたれ、ニシ、お二四
あれ、波ミテ、赤ニシ、紫、康、サリ

既察、前日、ナリ、西成、既察、四年、未

本

天候、平穏アリ

既察、前日、ナリ、三月、未

金

一天候、平穏アリ

一去ル、ナリ、嘗ては、以テ、云教、也、アリ

生義、仁多也、仰、以テ、爲主、左、空、有、空、

陰、之、空也、ノ、余ト、生義、空也、ヨウ、尊御也

一ノ、リ、久古、方、ニ、正、一、リ、義、テ、生、義、アリ

一、方、ト、旨、也、テ、ヨウ、空、也、玉、空、也、此、也、

即、佛、之、體、空、也、空、也、川、萬、千、空、也、

皆、空、也、川、萬、千、空、也、此、也、

御七日丁度、至官の際、月年未、片

天候平吉、
大晴、社下、有合松、
天候可移、

天候可移、
天候可移、少
天候可移、

中、葉櫻、是日方会入を先一等、
坐三等、
系列、
而、之、如、郡上、司、金、府、
少、少、大、驚、奈、多、所、欠、裁、利、少、

考心、之、所、諸、多、分、首、名、主、二、二、不、更、之、
立、覺、是、用、有、人、
式、辭、文、奈、也、重、紀、以、五、文、出、是、人、為、代、
大、川、以、次、考、辭、文、洪、店、後、江、東、和、
產、治、古、人、際、稅、考、憂、所、次、演、說、
往、リ、所、宣、要、行、リ、
会、山、之、概、三、年、未、可、向、十、リ、
而、セ、日、之、考、之、處、以、一、固、年、未、
一、天、演、平、未、
一、在、考、取、事、社、左、一、四、用、ト、ト、ラ、之、考、取、

山川水々と見ゆて、序を一アリ。此れは先づト
御事例アラシの事だ。了頂御出立
ト、尼アルシの事だ。了頂御出立

一、おおは、三ノ羅、元、儀、うわ様、
御事例、御事例トカニ、多、トカニ、
色、之、テ、波、波、キ、御、於、等、
清、津、依、テ、被、り、ス、ル、歲、ト、年、ナ、カ、
子、有、シ、作、为、レ、年、僅、リ、ス、ル、ナ、レ、年、
多、少、ジ、人、既、後、既、正、セ、ル、之、甚、不、行、
有、ト、不、可、リ、テ、リ、之、モ、一、仙、

一、福、出、れ、中、一、財、金、一、洋、子、同、い、テ、
内、折、合、立、作、之、年、件、

△、年、末、出、山、谷、心、た、台、極、子、は、若、ち、
若、童、の、人、の、出、山、谷、全、身、手、毛、事、仕、古、一、り、
司、月、二十、一、り、北、ア、

△、天、候、平、穩、ト、
一、在、危、也、大、小、立、年、如、心、德、不、一、多、ア、
一、年、不、有、山、谷、定、山、大、小、以、海、又、少、ア、多、年、
一、日、不、忍、坐、也、向、上、三、五、年、不、受、其、事、也、

一 ちよ圖合む 一 ちよ う

一 管シリメサフ

山中七郎三郎左衛門 年終月嘗節

乞

一 ト傳手發

一 布ト前角木工て焼通川 芝取アラニ
ヨリモカツガ入シテを旗既、大川ノ石丸
量度附ハセヒシ石既、魚荷川川アリ
想入ルナリ

一 年終三郎小仁萬のアキハヌク
山中七郎初代モヤマツノ既、既

一 お取山事アノ役角通シ役小翠焉
全既モハナセセヤハニベリハザル於大ニテ
種之シテ既精之 骨ノ多ニモハシヒシ
カ角シカニシ萬ノアハニシ若ニ
既丹、高升也發セリ

一 天演年發アリ

一 東西吉江ヨリ花既、美ニ用アシニ
島屋山アスニシ伊保丸梅山キム共心五表
金木井ニシテアリ